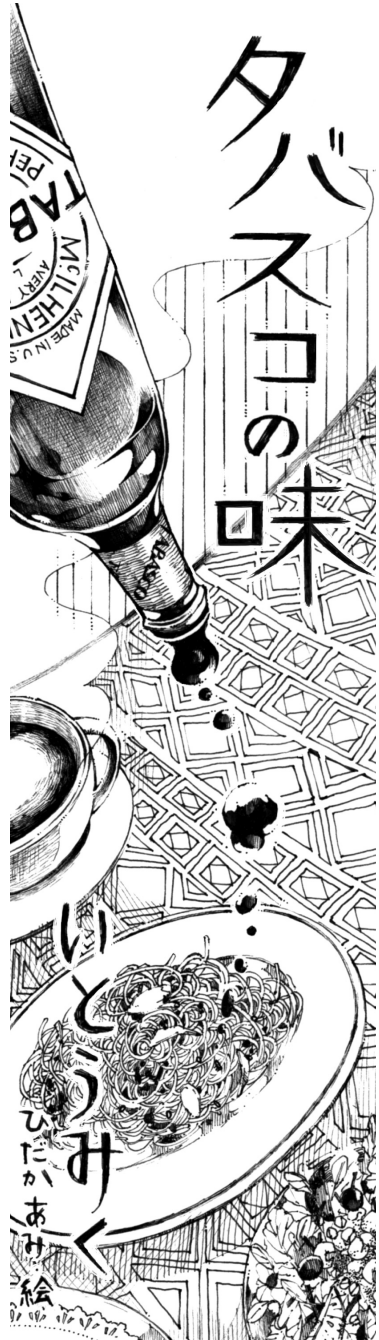


タバスの味



いた。

たぶん、あれ。

日曜日の午後一時。新宿駅南口の改札はハンパなく混んでいた。こんなになくさんの人のなかから、あの人を見つけることができたのは奇跡的、なのかそれとも……。

まあなんでもいいや。

あの人は、ずらっと並ぶ自動改札機の真ん中の改札を出たところにある柱の前で、『ドラえもん』の六巻をもって立っていた。

あれが、目印。

改札口からどどっと押し寄せるニンゲンの波にさからって、溺れかけてるみたいにあの人は顎をあげて、改札の向こうを見ている。

あたしを探しているんだろうな。

でも、ちょっと考えたらわかると思う。あたしはJRは使わない。うちから新宿に出るときに使うのは、都営地下鉄大江戸線。

忘れちゃった？ パパ。

八年前まで、パパも毎日乗ってた電車だよ。

パパは改札から出てきたパンク系のおにーさんにならまれないながら、きよるきよるしている。

一時十二分。待ち合わせより、十二分オーバー。

顔をあげると、シヨウウィンドーにうつすらとあたしがうつっていた。紺のピーコートに白いほわほわのタートル、フレアスカートにニーハイブーツ。

まあまあだな。でもそれでいい。今日のファッションは